

電動車椅子サッカーチーム「ナンチェスターユナイテッド 鹿児島」 クラブ概要

クラブ名:	ナンチェスターユナイテッド鹿児島
設立年月日:	2003年3月30日
ホームタウン:	鹿児島県始良市
選手人数:	6人 (2011年5月現在)

■チーム名の由来

ナンチェスター・ユナイテッド鹿児島の「Nan」は南の「ナン」。「chester」は方言の「チェスト」という言葉にかけています。「チェスト」とは鹿児島弁で「頑張れ!!」など、掛け声のときにも使われます。(例文)「チェストいけー!!」

■エンブレム、チームカラー

チームカラーの赤は、鹿児島を代表する火山・桜島のマグマと、闘志と情熱の象徴からきています。エンブレム上部は雄大な桜島。ストライプで広がる錦江湾といくつもの川を。右下には燃えるサッカーボールを施し、電動車椅子サッカーへの熱い思いを表しています。



— 活動理念 —

[1] スポーツを通じた社会貢献・電動車椅子サッカーの普及

ナンチェスター・ユナイテッドはスポーツを通じ、人々に勇気と活力を与える活動を目指します。そして電動車椅子サッカーの普及に積極的に取り組み、身体障害者に対する正しい認識を得るための積極的な地域への参加、社会との交流による障害者の自立・社会参加を促進するクラブづくりを実行します。

[2] 鹿児島から全国、そして世界へ通用するクラブを

ナンチェスター・ユナイテッドは全国に通用するクラブを目指します。そして近年の日本の電動車椅子サッカーの国際化に伴い、選手は日本代表入りも視野に入れ、世界にも通用するクラブを目指します。

[3] 夢と情熱を胸に、挑戦しつづける

ゼロからスタートしたナンチェスターユナイテッド 鹿児島は、地域や多くの人に支えられ、一つ一つの理想を現実のものにしてきました。ただ夢を語るだけでなく、それに対する具体的なビジョンを持ち、ナンチェスターは常に挑戦しつづけます。そして向上心と情熱を胸に、多くの人と夢や感動を共有していきます。

— 電動車椅子サッカーについて —

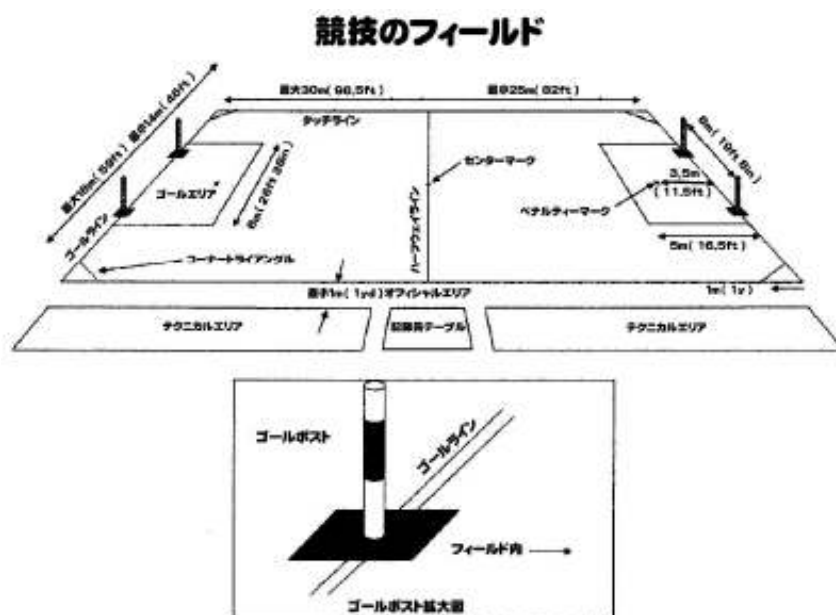
■ 電動車椅子サッカーとは

電動車椅子サッカーは“足を使わないサッカー”です。選手たちの多くは、自立した歩行ができない障害を持った選手が多く、なかには上体や首の保持ができないほど重度な障害を持つ選手もいます。しかし障害の度合いに関係なく、工夫次第で可能性も大きく広がるのが、この競技の大きな特徴の一つです。

近年では競技の国際化に伴い、規則改正され電動車椅子サッカーはよりスピード感あふれる、よりエキサイティングなスポーツへと進化しました。国際的な呼称はパワーチェアフットボールとなっています。

■ 基本的なルール (JPFA 日本電動車椅子サッカー協会ホームページより引用)

項目	説明
競技者	性別制限なし。要身体障害者手帳。5歳以上で電動車椅子の操作ができれば参加可
ボール	直径 13 インチ (32.5cm)
電動車椅子	最高速度 10km/h 以下 (※国内は最高速度 6km/h 以下)
フットガード	金属など硬質なものを使用
コート	バスケットボールのコートを使用
人数	1 チーム 4 名 (フィールドプレイヤー 3 名 + ゴールキーパー 1 名)
試合時間	前後半 20 分ハーフ (10 分インターバル)
P K	通常のサッカーと同様で、3.5m 離れて行う
2 on 1	基本的にボールに対して 3m 以内にチーム 1 人しかプレーに関与してはいけない



— ナンチェスター・ユナイテッドの軌跡 —

「なにかに夢中になりたい。自分たちの日常を変えたい」。そんな青年たちの思いからナンチェスターは誕生し、動きだしました。学生の頃に授業で知ったスポーツする素晴らしさ。教えてくれたのは他ならぬ「電動車椅子サッカー」でした。そして青年たちの夢と希望を込めて、2003年3月、「ナンチェスターユナイテッド」は結成されました。

しかし当時のナンチェスターはまさしくゼロからのスタート。本格的に電動車椅子サッカーを行うとなった場合に必要なこと、すべては一筋縄でいきませんでした。しかし大変だった半面、充実感、達成感は選手一人一人の成長へとつながりました。

そしてチーム設立から三ヵ月後。多くの課題をクリアし、ついにナンチェスターは初の公式戦を福岡で行います。しかしそのときは勝利を掴むことはできず、つづく同年の夏の大阪選抜大会、冬の熊本予選大会でも完敗を期し、選手たちは全国の壁の高さをまざまざと見せつけられます。そうして迎えた翌年の2004年10月31日、ナンチェスターは地元鹿児島で自らが主催した大会でようやく念願の初勝利、さらには初優勝をおさめることができました。その日まで積み重ねてきたもの、そして感謝の思い。選手達は感極まり、その一勝はチームにとって、とても大きな原動力となりました。

それからは負ける時こそあるものの、ナンチェスターは一步一步確実に実力を上げていきました。チームとしての経験を重ね、2009年の選手権大会では堂々の準優勝。そして2011年に入り、ついに念願のナンチェスターから日本代表選手の選出がありました。チーム設立当初からの大きな目標だった全国制覇もついに見えてきました。

ナンチェスターは大会以外でも積極的に活動していきます。この電動車椅子サッカーを通じて、社会に対しできることを常に考え、行っていきたいと考えています。

— 今後の課題 —

ナンチェスターの練習は月に3、4回のペースで行っています。しかし練習の際にサポートしていただけるボランティアの人数はギリギリの状態で行っています。これは手伝っていただけるボランティアの方への負担が大きくなってしまっているので最大限避けなければなりません。私たちは今後も周囲に電動車椅子サッカーのさらなる理解を求め、認知度の向上などでこれらの問題を解決していかなければなりません。

そして現在、ナンチェスターの一番の課題となっているもの。それは深刻な財政難です。現在チームの運営は選手の会費のみで賄っており、遠征などを含めた積極的な活動を行っていくにはかなり厳しい現状といえます。不足している資金は試合に必要な機材、使用する電動車椅子に関わる消耗品、メンテナンス、そして遠征費、と活動していくにはすべて必要不可欠なものです。

今後チームが積極的な活動をしていくためにも、財政難という問題は早急に解決しなければなりません。

— ナンチェスター・ユナイテッドのこれから —

私たちは当初、自分たちの毎日を変えるために電動車椅子サッカーをはじめました。しかしこれからのナンチェスターは、少しでも社会貢献に繋がる活動もしていかなければならないと考えています。

鹿児島にも電動車椅子に乗って生活している方は沢山います。しかし電動車椅子サッカーを本格的にプレーしているのは私たち以外にはいないのが現状です。置かれている環境的な問題から、残念なことにスポーツをすることを諦めてしまっている場合もあると思います。「そんな人たちにも電動車椅子サッカーの素晴らしさを伝えたい」。スポーツは本人も、周りの人たちも幸せにします。

ナンチェスターは今後の活動において、鹿児島での電動車椅子サッカー普及の中心的な役割を担っていかねばと考えています。それは多くの社会参加の機会をつくり、障害者の自立の促進にも繋がると考えます。そしてなにより、ナンチェスターの活動によって健常者・障害者関係なく、確かな"何か"を伝えていくことができると感じています。それはとても抽象的で、すぐに数字などに表れるものではないかもしれませんが、これまでの活動を通してこのスポーツが周りに与える影響というものを、私たちは再認識せずにはられません。

最後にあと一つ、ナンチェスターが目指す活動があります。それは九州全体の競技レベルの向上を図るということ。方法は二つあります。まず地元鹿児島をはじめ、広く社会に電動車椅子サッカーを浸透させ、競技人口を増やし、それによる競技レベルの向上を図る方法。もう一つは九州全体にあるいくつかのチームと活発な交流をし、刺激しあひ互いのチームレベル、ひいては九州全体の競技レベルの向上を目指すという方法。もちろんそれにはナンチェスター自身のレベルを上げ、社会への認知度を向上させることも非常に重要な手段だと考えています。

ナンチェスターは上記のことを踏まえた積極的な活動をしていきます。そして多くの人に支えられているという感謝の気持ちと熱い思いを胸に、私たちは常に走り続けます。